

JA みちのく協同組合 第四回 J C N現地会議 in 福島発表資料

2012 年 11 月 28 日 於 二本松市市民交流センター

発表：みちのく安達農業共同組合 組合長 齊藤道雄

●プロフィール

昭和 16 年 2 月生まれ、東和町で育つ。高校を出て農業を継ぎ、きゅうり営農のほか、少量多品目の野菜生産や畜産を営み、農業歴 30 年余。平成 9 年に二本松市農協、安達町農協、岩代町農協、福島東和町農協が合併して設立されたみちのく安達農業協同組合に平成 10 年から理事。平成 22 年 5 月に組合長に就任。

●震災から今日まで

・平成 22 年、23 年、24 年で大打撃を受けた生産者の農業そのものと販売。米穀、畜産、果樹、野菜それぞれに検査体制づくり、県外からの農資材の確保など、様々な難問。23 年度産米は、流通禁止。補償が入ってこず賠償に取り組む。

・平成 22 年に直販課を設置し、高齢者でも取り組める少量多品目の生産・加工による活性化に着手した矢先の震災で、生きがい・やりがいを失い、農業をあきらめる農家が増える。あきらめない農家で全量検査に取り組む。独自の検査（JA による予備検査）を行っても、県の検査で放射能が検出される不安がつきまとう。セシウムの影響が出ない方法を常に念頭に置いている。

・やってきた事すべてが奪われた。誇りや生きがいを失った。どう取り戻すか。「原発事故にせいにして甘えるな」「どうせ補償される」という厳しい声は多い。

●これからの取り組み

・「直販課を伸ばす」「市場出荷の検査体制づくり」に力を入れる。・これからは循環型農業にも取り組む。畜産農家の排せつ物を、特別栽培・有機栽培に活用していたが、それが出来なくなった。畜産から出る堆肥（厩肥）の数値が高い。行政が中心になって対策を進めている。

・長期的な課題として、土地の荒廃をどう防ぐか、新規就農者をどう育てるか、学校給食への供給再開など。

・原発事故を悲しみ、言い訳にしているは前に進めない。ある JA では、遊休農地の試験圃場的な取り組みをしている。JA みちのく安達としてどうしていくか、行政も含めて。考えていきたい。

・与えられるすべてのものをクリアして、消費者にゆだねるしかない。長い時間をかけて理解をいただくしかない。すべて原発のせいにしても解決しない。今やれることは何か、を考えてやっていきたい。

・生産者と消費者が背中合わせでは日本の未来はない。今回の原発は大衝撃であることは間違いないが、歩みを止めるわけにはいかない。個人バラバラにやるのではなく、JA として覚悟を持てるか。

・百姓やっていいのか、人を呼んでいいのか、心配はある。原発事故に関係なく、地域の耕作放棄地をどうするか、新規就農者をどうするか、そういうもともと厳しかった地域の事情と向き合い、逆に考える機会に。

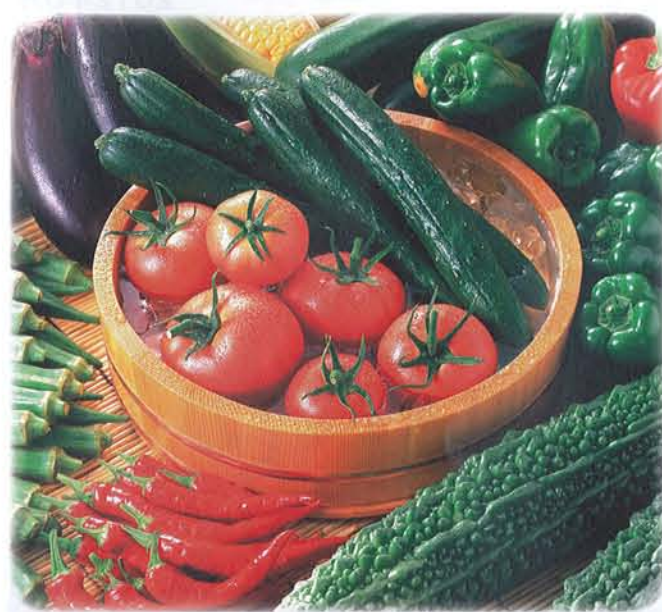
全国初

JAみちのく安達

直売所に

「トレーサビリティ
システム」導入

こらんしよ市安全安心の要
「トレーサビリティシステム」



安全・安心な農産物を
お届けするために

トレーサビリティシステムは生産者より出荷前に提出された栽培管理日誌（農作物の種蒔きから収穫までを記録したもの）をパソコンに取り込み、農薬の適正使用等を判定するシステムです。

このシステムは、こらんしよ市のバーコード発券システム・レジシステムと連動しており、農薬の適正使用が確認された農産物だけが販売されます。

全ては生産者の愛情たっぷりの農産物を皆様に安心して食べていただくための取組であり、このシステムを直売所に導入したのは全国初の事例になります。



システム導入前の作業

① 出荷3日前までに出品品目の栽培管理日誌を直売所スタッフへ提出。

② 本店担当課で、提出された栽培管理日誌の内容を担当者が確認しました。

③ 問題がなければ、店頭にて販売。

④ 使用農薬等に問題があれば会員及びスタッフへ連絡または訪問して販売前にストップ

導入前の課題

多品目を取扱いする直売所で、随時更新される農薬を調べながら使用内容を確認するため、出荷最盛期では、担当者が週に4〜5時間かけて確認を行っていました。

職員及びスタッフ（人）により管理

システム導入後の作業



▲スタッフによる作業

① 出荷品目の栽培管理日誌を直売所で入手して記帳し、出荷3日前までにスタッフへ提出し、直売所でスキャナからトレーサビ生産支援システムに読みませます。

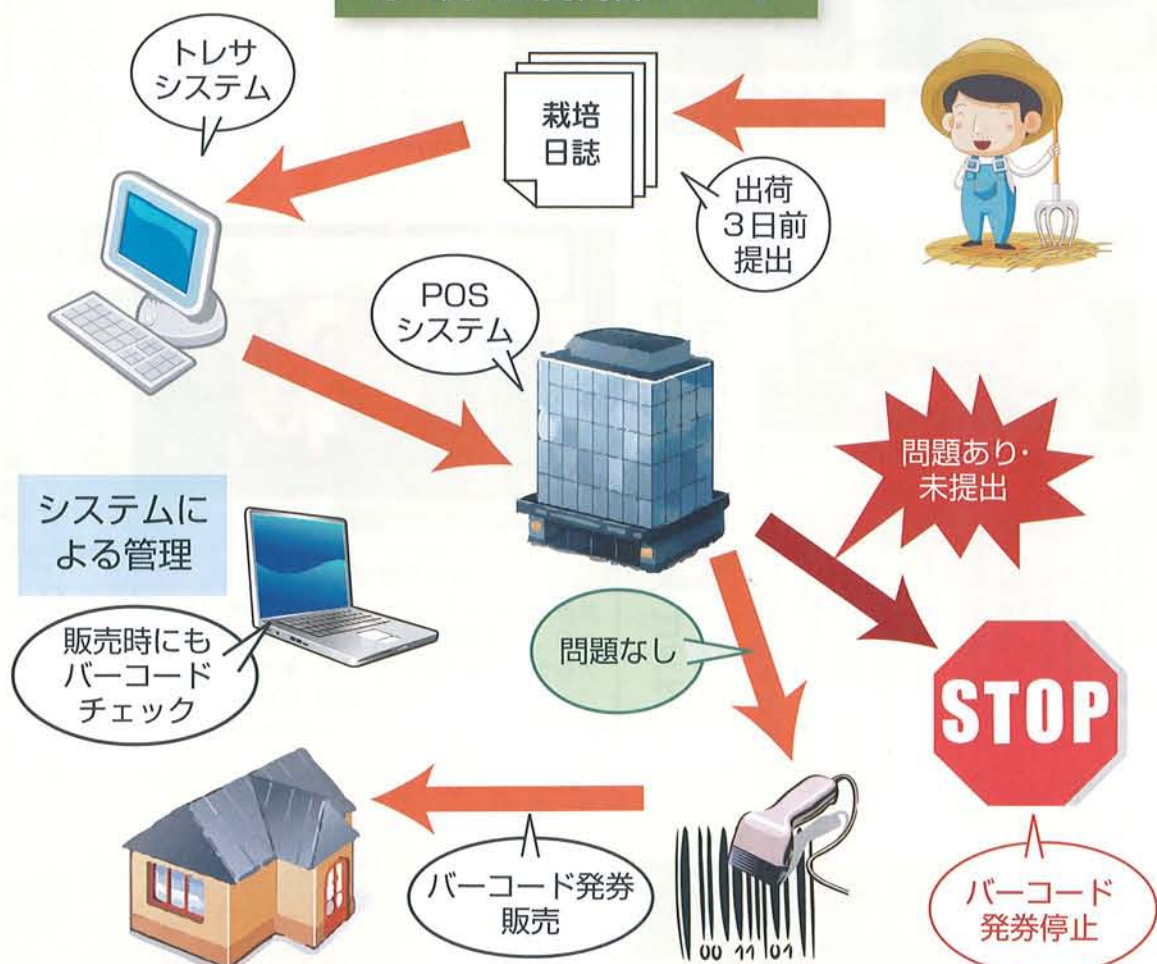
② POSシステムにトレーサビ生産支援システムのデータ（結果）を取込む（会員・品目ごと）

③ POSシステムでは会員及び品目ごとPOSに入込まれたデータにより、①栽培管理日誌が提出され、さらに内容に問題がない場合、その会員のその品目についてバーコードが発券できます。

④ 会員ごとに栽培管理日誌が提出された品目だけレジPOSでバーコードの読取をします。（前年度に発券されたバーコードへの対応の為）

システムによる管理
システムによるダブルチェック

導入後の連携内容イメージ



特集Ⅲ

実りの季節

福島県産米のブランド復活を願う

早場米「五百川」の刈り取りが始まる。

(8月23日)



▲早場米「五百川」の刈り取りを行う安斎さん

たくさんの報道関係者が見守る中、早場米「五百川」の刈り取りが、二本松市の安斎孝行さんの圃場で始まりました。

県内トップ「全袋検査」スタート

(8月25日)



▲米の全袋調査の様子

福島県内のトップをきつて、全袋検査が二本松市上川崎で始まりました。
8月23日に刈り取られた早場米「五百川」14袋(30キロ入り)が、齋藤道雄組合長、佐藤雄平知事、三保恵二二本松市長ら関係者が見守る中、検査が行われました。
基準値以下を示す、「○」が表示されると見守った関係者に安堵の表情が広がりました。
検査が終わった米には、検査済みラベルが貼られました。

新米「五百川」直売所店頭

(8月28日)



▲店頭に並べられた「五百川米」



▲五百川米を試食する親子

米全袋検査で安全性が確認され、等級検査が行われた早場米「五百川」の販売がJAの直売所「こらんしょ市」と「こらんしょ市本宮店」で始まりました。
両店舗でスタッフが来店者に「五百川米」の美味しさをアピール。買い物客からは、「美味しいお米ですね」「8月に新米が食べられるなんてうれしいです」と喜ばれました。
この日準備された2キロ入り80袋は、完売となりました。

がんばろう畜産 —早期の正常な畜産経営を目指して—

繁殖

「第22回JA福島地方肉用牛共進会」が10月3日、JA新ふくしま立子山地区活性化センターで開催されました。

グランドチャンピオンには、第2区「優等賞」のJAみちのく安達 菅野 徳太さんの出品牛「たか84」号が輝きました。

今回の上位入賞牛は、11月5日、本宮市の県家畜市場で開催された「JAグループ管理育成共進会」に出品されました。

主な上位入賞牛

第1区(保留候補牛)

優等賞 佐藤 善映「たから20の8」号

1等1席 石橋 広基「だいふく」号

第2区(若雌の1)

優等賞 菅野 徳太「たか84」号

1等1席 斎藤 正剛「やどつばさ364」号

1等2席 菅野 誠「さくら25」号

第3区(若雌の2)

優等賞 門馬 正子「いわした510」号

肉牛

「第10回全国和牛能力共進会福島県代表出品者激励会」が10月12日、ラポートあだちで開催されました。

出品者の佐久間 稔さんへ組合長よりお祝の言葉と激励金が手渡されました。

佐久間さんは「上位入賞を目指しがんばってきます」と力強いあいさつを行い、会場の畜産仲間から多くの激励と拍手が寄せられました。



▲出品者挨拶を行う
佐久間 稔さん

「第45回JAグループ福島肉牛共励会」が10月12日、東京中央卸売市場食肉市場で開催されました。

前夜祭の「銘柄福島牛」産地懇談会では、庄条JA五連会長、村田福島県副知事が駆けつけました。

共励会では、みちのく安達から和牛の部に4頭、交雑の部に4頭が出品され、和牛の部の加藤幸雄さんの出品牛が「優秀賞」、交雑の部の上野広行さんの出品牛が「優秀賞」、高野仁さんの出品牛が「優良賞」を受賞しました。



▲「銘柄福島牛」産地懇談会で挨拶をする
鈴木廣直 JAグループ福島肉牛振興協議会長

宮崎県で発生した口蹄疫や東日本大震災の影響で止まっていた福島牛のアメリカ輸出が2年6ヶ月ぶりに再開されました。

再開を祝った「出発式」が10月14日、本宮市の県家畜市場で行われ、関係者が「テープカット」を行いました。風評被害の払拭への期待を込め、3頭が群馬県の加工施設に向け出発。枝肉に処理され後、アメリカへ輸出されました。



◀テープカットをする、齋藤道雄組合長(写真左から2番目)と鈴木廣直 JAグループ福島肉牛振興協議会長(写真左)

◆JAみちのく安達実績(開催日 10月10日・11日)

単位:円(税込み)

	入場	成立	平均価格	最高価格	最低価格	体重	kg単価	平均日令	前月価格	前月比
雌	45	45	377,907	583,800	28,350	280	1,348	291	384,242	-6,335
去	61	61	439,675	562,800	135,450	310	1,420	278	472,554	-32,879
計	106	106	413,452	583,800	28,350	297	1,392	284	438,732	-25,280

◆福島県家畜市場(開催日 10月10日・11日)

単位:円(税込み)

	入場	成立	平均価格	最高価格	最低価格	体重	kg単価	平均日令	前月価格	前月比
雌	244	239	391,395	705,600	28,350	281	1,395	287	391,593	-198
去	312	311	450,048	636,300	135,450	304	1,479	279	467,976	-17,928
計	556	550	424,561	705,600	28,350	294	1,445	282	434,711	-10,150

◆乳牛子牛市況(開催日 10月16日)

単位:円(税込み)

	成立	平均価格	最高価格	最低価格	体重	kg単価	前月価格	前月比
ET 和雌	1	289,800	289,800	289,800	69	4,200	231,000	58,800
ET 和雄	—	—	—	—	—	—	—	—
乳 雌 牛	2	6,300	6,300	6,300	66	97	—	—
乳 雄 牛	45	17,804	33,600	1,050	67	267	18,925	-1,121
F1 雌(スモール)	59	86,687	152,250	12,600	61	1,410	80,410	6,277
F1 雄(スモール)	65	119,199	220,500	5,250	67	1,775	131,381	-12,182

10月の和牛子牛市況

●今月のアドバイス セリ市場出場子牛の手入れについて

セリ出場子牛の体の水洗いはやめましょう。これから寒い時期を向え、特にセリ場がないでの水洗いは風邪引きの原因になり、セリ成立後のトラブル等になります。計画を立てて行ってください。

特集Ⅱ

10月7日

福島県産米アピール 野田首相全袋検査の態勢を理解



▲「おにぎり」を試食する野田首相(写真左から2番目)と佐藤知事(写真右から2番目)

◀米の全袋検査を体験する野田首相(写真中央)

【平成23年度米集荷販売状況】

集荷数量	372,840袋	
特別隔離	210,340袋	(集荷数量対比 56%)
販売数量	162,500袋	(集荷数量対比 44%)

【品目別販売実績対比表】

		(単位：金額：千円、数量：袋・頭・t、単価：円)			
作物	項目	平成22年度 実績	平成23年 実績 H22対比		平成24年 実績 H22対比
米	販売金額	2,034,421	1,050,861	52%	483,235 24%
	販売数量	307,225	167,510	55%	74,401 24%
	販売単価	6,622	6,273	95%	6,495 98%
畜産 (肉牛類)	販売金額	1,047,467	952,292	91%	634,812 61%
	販売数量	2,715	2,791	103%	1,864 69%
	販売単価	385,807	341,201	88%	340,564 88%
畜産 (生乳)	販売金額	792,397	663,173	84%	483,220 61%
	販売数量	8,059	6637	82%	5,463 68%
	販売単価	98	100	102%	88 90%
野菜	販売金額	1,982,824	1,649,433	83%	1,042,976 53%
	販売数量	5,707	5,357	94%	4,988 87%
	販売単価	347	308	89%	209 60%
※期間		H22.3.1～H23.2.末	H23.3.1～H24.2.末		H24.3.1～H24.10.末

【全量全袋検査結果】

H24.11.26発表分

		(単位：袋30kg)				
区分	合計	25Bq/kg以下	26～50Bq/kg	51～75Bq/kg	76～100Bq/kg	100Bq/kg超
福島県	9,098,367	9,078,019 99.8%	18,462 0.2%	1,527 0.0%	309 0.0%	50 0.0%
二本松市	255,448	254394 99.6%	980 0.4%	74 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
本宮市	227,049	225,957 99.5%	879 0.4%	203 0.1%	10 0.0%	0 0.0%
大玉村	146,959	146,368 99.6%	567 0.4%	18 0.0%	0 0.0%	6 0.0%

【原発事故に伴う東京電力への農産物損害賠償状況】

(H24.10月末現在)

	金額（千円）	割合
請求金額	3,628,329	—
支払金額	2,477,135	68.3%
未払金額	1,151,194	31.7%